規模決定根拠の例

新規に育苗ハウス、内部設備の整備を行う場合

【育苗ハウス部分】

・成果目標を〇〇aの県育成品種の増加としているため、

　○○a分の本ぽ定植に必要な苗数は◇◇本となる。

・本ぽ定植に必要な本数は◇◇本であるが、苗のロス率を考慮し、

　生産する本数は××本となる。

・××本の苗を育苗するために必要なスペースは㎡あたり〇本苗を置くので、○

　○㎡必要となる。

・育苗ベンチ（幅〇ｍ長さ〇ｍ高さ〇ｍ）は〇台分である。

・育苗ベンチを〇列×〇台、通路幅〇ｍを含み設置するためには、間口〇ｍ、奥

　行き〇ｍのパイプハウスが必要である。

【養液かん水装置＋カタツムリトレイ】

・養液かん水装置　○○社のカタログの仕様により

　型番◇◇の○○㎡用を導入する。

・今回整備する育苗ハウスは○○㎡であり、育苗本数は××本であることから

　養液かん水装置の規模は妥当である。

・カタツムリトレイは1トレイ○○セルのものであり、今回必要な××本を育

　苗するためには○○トレイ必要である。

【細霧冷房装置】

・細霧冷房装置　○○社のカタログ仕様により型番◇◇の〇〇㎡用を

　導入する。

・今回整備する育苗ハウスは○○㎡であり、高さ〇ｍのため、細霧冷蔵装置の

　規模は妥当である。

<参考資料>

パイプハウスの図面